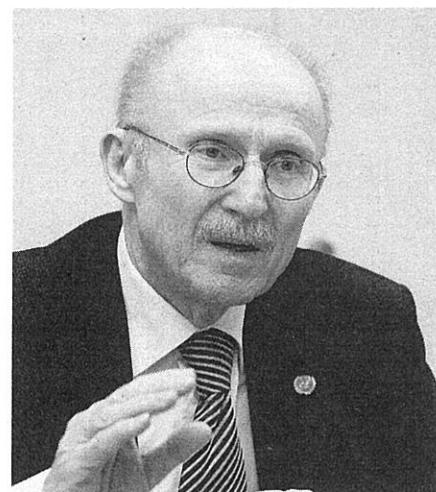


国連事務総長特別顧問

ウィルフリード・レムケ氏



サッカーの独ブンデスリーガ、SVベルダー・ブレーメンのゼネラルマネジャーを18年務め、ブレーメン市のスポーツや教育担当相も歴任した。2008年、開発と平和のためのスポーツ支援を担当する国連事務総長特別顧問に任命された。67歳。

2020年東京五輪・パリリンピック開催に向けて、スポーツを通じて途上国社会の変革を目指してきたウィルフリード・レムケ国連事務総長特別顧問は、草の根の人材育成が持続的な成果を生む力だと語る。

(聞き手 結城和香子)

編集委員が
迫る

「リーダーを作る
東京は招致公約で、ス
ポーツを通じた国際支援プロ
ジェクト「Sports f
or Tomorrow」を
打ち出した。途上国の体育力
派遣が軸だという。その時に
大切な視点とは何か。

「指導者と用具を現地に送
り、スポーツを教えるだけの
従来型のプログラムでは、予
算切れと同時に活動も終わ
り、後には何も残らないこと

「カイロで行われた女子卓
球のプログラムが、予算がな
くなつた途端に廃れてしま
い、2年後には政府関係者さ
えもがその存在を忘れてしま
つていた、という体験をした。
一方、我々が2012年に開

いた『ユース・リーダーシッ
プ・キャンプ』で卓球の面白
さを知ったウガンダの若者
が、学校で古い木のテーブル
を使い子どもたちに教え始め
た。卓球台一台分の資金40
0円を提供すると、その若者
は仲間と町まで台を買いに行
き、トラックに載せて200
キロを「凱旋」する騒ぎになっ
たという。子どもたちは「ウ
ガンダのチャンピオン」を目
指し練習に励み、しまいには
国際卓球連盟までがその活動
を支援するようになつた。柔
道でも何でも、現地に情熱が
生まれなくては活動は根付か
ない」

「東京で初キャンプ
社会を変える

■普遍の面白さ
「もちろん。ただ最初の一
歩は難しい。双方の政府の
容認や支援も必要となるから
だ。しかし、韓国で開かれた
キャンプに北朝鮮の若者が参
加したように、小さいが意義
のある一歩を踏み出すことは
できる。「コミュニケーション
は、戦争を防ぐ最善の手段だ」
—触媒として、なぜスポ
ーツが有効なのか。

「スポーツの社会的価値
は、工夫すれば最低限の用具
でも実施可能だし、誰もが面
白さを理解できる普遍性があ
るからだ。スポーツは人間教
育としても多くのことを教え
てくれる。人は自分のエゴだ
けで動けば周囲に受け入れら
れにくい。スポーツを通じて
仲間への尊重やチームワーク
を早期に身につけることが、
大切な素地となる」

■明白な価値
「利点は明白だ。例えばス
ポーツと無縁で深酒や過食の
度が過ぎれば、60歳前で人生
に息切れする。しかし体を動
かし続けている人は、70歳近
くなつても活力が旺盛だ。68
歳に近い私自身も毎週日曜の

スポーツ 社会を変える

が多い。私に言わせるところではお金を燃やすようなものだ。どうやって活動を浸透させ、持続させるのか。それには現地の人々、特に若者に、核となる情熱を持つリーダー役を育てることがポイントだ」

「我々の活動の主眼は五つ。アフリカを軸とした途上国の開発支援、若者のリーダーの育成、女性や障害を持つ人々への差別との闘い、平和の促進だ。それにはスポーツが触媒として大いに役に立つ」

「2年前に始まり、今回が8度目となるキャンプは、日本では初開催だ。今回は日本

を含むアジア・アフリカ14か国から30人が参加し、約10日間にわたり柔道や水泳などのスポーツを体験、スポーツを通じてどう子供たちの身近な模範となる存在を作り、差別を緩和し、人々を統合するかを学び、意見を交換し合う。被災地も訪れる」

「スポーツは慣習という壁を破り、差別を超える力をを持つ。その狙いはキャンプ参加者の選抜方法にも生かしている」

—

る。途上国で活動する非政府組織に、地元出身でリーダーの資質を持つ18歳から25歳までの若者を、男女一組を基本単位に推薦してもらっているのだ。男女一組というのではなく、世界人口の半数を占める女性の比率を公平に反映するための工夫だ。この手法は当初、男性上位の地域社会で『父親や兄弟が許さない』『女性は関心がない』など多くの抵抗に遭つたが、譲らなかつた。

「ただ本来政治を動かすには、根拠となる数字があると効果的だ。15年、20年という長期的な追跡調査で、スポ

ーツを続ける人々と、そうでない人々との社会的地位、労働意欲、健康データなどの対比をし、医療費削減効果の試算や労働力が増えることでのプラスの試算があれば良いと常々考えてきた。しかしこれは長期的過ぎてなかなか大学等での研究課題になりにく

「宣言より行動」参考に



人を変えることが社会を変え、長期的な影響力を持つ変革を呼ぶという。途上国の中でも、五輪・パラリンピックのレガシー（遺産）でもそれは同じだ。ただ、人や社会に与える変化というのは、簡単に数字で示すことができない。だからスポーツの社会的価値が、大きな潜在力を持っている。体を動かし自ら実感してもらうことに勝る、風穴を開けるためには「宣言より行動。どんな小さな一步でもいい」。高い理想と地道な行動力。日本がスポーツを通じた国際支援を考える時、人材育成と実践を第一義とする、レムケ氏の信念は参考になる。

(結城)

■普遍の面白さ
「朝、妻や地域の友人と最低12キロを走っているが、その機会がいつも楽しみで仕方がない。日本だけでなく多くの国がこれから超高齢化社会を迎えるが、労働力の確保だけでなく、医療費や社会保障費の削減にどれだけスポーツが寄与できるかも、よく知られた

「国連の常もあるが、文書や宣言を採択するだけでは何も変わらない。人と社会を変えるには、小さな一步でも実際に活動を始めることが大切だ。東京が2020年に向けて、こうしたキャンプ開催を毎年支援するなど、スポーツを使って人々の心を触発し、変化の芽を植えていくこと。それが持続可能な変革を呼ぶ、日本の真の国際貢献にもなる」

事実になつていて

—

—